



山崎巨裕 議員  
(日本共産党)

**問** 地震・洪水ハザードマップについて伺う

洪水時、命を守る避難はどうあるべきか。このマップは避難場所への安全な避難経路を考えるのに役立つ。市の防災対策がどこまで進んでいるのかを随時市民に知らせることとハザードマップの活用の手立てを検討してはいかがか。

**答** ハザードマップの活用方法を周知する

市では、コロナ禍における災害時の避難所への避難について、3つの密を極力低減させるための周知・啓発を行っている。また、ハザードマップについては、多くの市民が利用できるよう、出前講座や市公式ホームページを通じて活用方法を周知していく。

**問** 学校の防災教育について伺う

学校では火災・地震に対する避難訓練や水難事故防止の訓練などが行われている。しかし、洪水から身を守る訓練・教育は実践されていない。近年の台風・豪雨災害を想起すると、学校でぜひ「地震・洪水ハザードマップ」を利用した防災教育を実施すべきではないか。

**答** ハザードマップの活用を周知していく

児童生徒に、命を守るための避難行動等を指導するとともに、各家庭に学校だより等を通じ、ハザードマップを活用した防災教育の周知を図っていく。また学校運営協議会やPTAとの会合で、学校と地域が連携した防災教育のありかたについて啓発に努めていく。



松本栄一 議員  
(創政会)

**問** 信号がない横断歩道での安全確保を

歩行者が信号のない横断歩道を渡ろうとしているとき、車が一時停止しないのは道路交通法違反である。各種のぼり旗で注意喚起をしているが効果が薄い。「止まってくれてありがとう」の感謝型文言で新しいのぼり旗を作成、一時停止の推進を図るべきと思うが。

**答** より効果的な啓発方法を検討していく

信号機のない横断歩道のうち、危険な個所には、対策が必要な状況にある。今後、のぼり旗によるドライバーへの呼びかけなども含め、より効果的な啓発方法を検討し、引き続き、久喜警察署等の関係機関と連携の上、歩行者などの安全確保に努めていく。

**問** 中学校への携帯電話の持ち込み対応は

文部科学省は、本年6月に中学校への携帯電話の持ち込みを一定の条件下で認め、各県の教育委員会に通知した。市内中学校における取り扱いの指導状況は。保有及び使用状況の調査をしているか。また県教育委員会よりの通知について、どのように対応するのか。

**答** 指導環境の整備等に取り組んでいく

携帯電話の持ち込みは原則禁止であることは変わらない。今後は、県の方針を受け、今年度中には市の指導方針を定めていく。また、保有実態に合わせた指導環境の整備及び「白岡市子どものネット利用宣言」の有効活用等に取り組み、情報教育の充実を図っていく。



「止まってくれてありがとう」の旗を